

# NPO法人 わかば & 町議会

町の学童保育クラブの運営をされているNPO法人わかばの皆さまにお集まりいただきお話を伺いました。

子供たちと過ごせる  
楽しくて刺激的なお仕事です



Q この仕事に就いたきっかけは？

「町の事務に登録した時に「学童はどうですか？」と紹介された。  
「始め、図書館に勤めていたんですが、その後、夏休みの臨時支援員、定員を2割増しで預かるときの支援員、障がい児担当などを務めていたら常勤の空きができて...」  
「私も、町の事務をやっていた時に紹介されて。子供にかかわる仕事をしたことは無かったけれど、経験するにはいいチャンスと思って。」

Q NPO法人を立ち上げたきっかけは？

「平成23年に町からNPO法人化してはとの話があった。それがきっかけになって、ネットで調べたり、ボランティアセンターで聞いたり、相談したりしました。でも、その後、町から具体的な話もなく、それっきりになってたんですが、26年に再度声がかかって。それから、定款がどうの、役員が何人...なんて話が進み、一緒にやろうとメンバーが揃ったので、27年2月16日に設立の認証が下りたんです。その2か月後の4月にスタートします。」



(左から) 加瀬 知美さん 松尾 洋子さん 飯田 祐子さん (瑞穂第三小学童保育クラブにて)

「子供の成長に携われること。卒業してからも見かけたら「先生!!」って声をかけられることもあって、とてもうれしいですね。」

「当時、手のかかった子ほどよく覚えてくれるよね。」

「現場だけでなく、運営にかかわったり、各関係機関とのつながりができたりと、視野が広がったと思います。」

「支援員を集めるのが大変ですね。フルに働ける方ばかりではないので、シフトやローテーションで工夫したり。」

「手をかけてあげたいお子さんも多いんですが、手が足りないっていうか...」

「以前より町に現場の声を伝えやすくなりました。でも、まだまだ、言いたいことはいっぱい(苦笑)。」

Q 今後、さらに、どんなことがしたいですか？

「地域の子供たちともかかわれることがしたいですね。お祭りに参加したり...」  
「放課後デイサービスみたいな場もできたらいいなと思っています。」  
「待機児童を無くしたいです。夏休みだけ預かる「サマー学童」を昨年スタートしましたが、これも現場や保護者の声を聞いて始めたんです。」

Q 子供のこの夢は何でしたか？

「漫画家。子供たちとお話かきすることも多いんですが、結構、尊敬されています。ピアノの先生。実は先生として教えてたりもしたんです。」

「デザイナー。今は、仕事がいやいやいよう部屋のレイアウトなどに生かしています。」

Q 皆さんが着ている上着のマークは？

「「まめ」って呼んでるんですが、芽が出てるでしょ。「わかば」です。」

「メンバーの人に原案を考えてもらって、知り合いの方にマスコットキャラクターに仕上げてもらいました。」

Q どんな瑞穂町にしたいですか？

「瑞穂町には多摩のダイバーシティを目指してほしい。」  
「瑞穂町ってすごいね」って言われるくらい、時代の一步も二歩も先行く誇れる町。」

Q PRをお願いします。

「支援員を大募集中です。」  
「子供たちと過ごせる、楽しくて刺激のお仕事です。」

Q 議会や「ギカイのひろば」に一言。

「議員さんて遠い存在だと思ってました。話を聞いてもらえてうれしかった。」  
「「ギカイのひろば」はいつも読んでます。事務所にも配布されるので、写真とかがあっけ見やすいですね。」

「参加してくださったNPO法人わかばの皆さん、ご協力ありがとうございました。」